

令和 2 年度
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
 成果報告書

団 体 名	特定非営利活動法人劇場創造ネットワーク	
施 設 名	杉並区立杉並芸術会館「座・高円寺」	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	25,565	(千円)
公 演 事 業	21,661	(千円)
人材養成事業	0	(千円)
普及啓発事業	3,904	(千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	世界をみよう！	令和2年7月18日～9月28日	『ピン・ポン』 構成・演出：佐藤信 演出・美術：tupera tupera 演出・振付：竹屋啓子 出演：公門美佳、久保恒雄、光田圭亮、音楽演奏：磯田収 海外招へい3作品は中止	目標値	1,500
		座・高円寺、杉並区内小学校		実績値	458※
2	劇場へいこう！	令和2年8月28日～10月25日	『フランドン農学校の豚～注文の多いオマケ付き～』 原作：宮沢賢治 上演台本：佃典彦 演出：西沢栄治 出演：宮島岳史、塚本淳也、山田宗一郎、小玉雄大、安川里奈、柴田美波、平体まひろ 『ピノッキオ』 原作：カルロ・コッローディ 脚本・演出：テレサ・ルドヴィコ 美術：ルカ・ルツァ 照明：齋藤茂男 音響：島猛 翻訳・通訳 石川若枝 出演：高田恵篤、KONTA、辻田暁、森ようこ、高橋優太、田中真之、黒須育海	目標値	5,250
		座・高円寺、杉並区内小学校等		実績値	1,481※
3	男たちの中で	令和2年10月17日～25日	『男たちの中で』 原作：エドワード・ボンド『In the Company of Men』 翻訳：堀切克洋、ドラマトゥルク：ダヴィッド・テュアイヨン 上演台本・演出：佐藤信 美術：長尾真莉子 衣裳：森亮介 照明：齋藤茂男 映像：浜嶋将裕 音響：島猛 舞台監督：佐藤明子 出演：松田慎也、服部吉次、山口賢人、大森博史、河合龍之介、小須田康人	目標値	1,000
		座・高円寺		実績値	692※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1				目標値	
				実績値	
2				目標値	
				実績値	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	遊ぼうよ!	令和2年4月～令和3年3月	〈みんなのリトル高円寺〉 監修：香坂奈々(舞台美術家) 古賀彰吾(演出家、俳優) 舞台監督：佐藤昭子 〈絵本の旅@カフェ〉 〈みんなの作業場〉 講師：young donuts(ラップ音楽)、篠川理湖(舞台美術家)、米澤一平(舞踊家)、翁家和助(太神楽)、他	目標値	4,500
		高円寺 他		実績値	637※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進め</p> <hr/> <p>助成対象事業</p> <p>公演事業：「世界をみよう！」「劇場へいこう！」「男たちの中で」</p> <p>普及啓発事業：「遊ぼうよ！」</p> <p>杉並区立杉並芸術館「座・高円寺」は、「杉並区基本構想」で掲げるビジョンのうち、1）地域における多様なつながりの中で心豊かで自立心を持った「次代を担う人」を育むまちを築く 2）地域の特性を活かし、将来を見据えた産業の振興や経済活動の活性化 3）誰もが文化・芸術や生涯学習・スポーツに親しむことのできる環境の整備 4）文化芸術の振興を図るとともに、多様な文化が共存・発展する共生社会を築く の4点に基づき、人のにぎわいの絶えない「暮らしとともにある劇場」として、1）舞台芸術をつくる 2）観客とつながる 3）町とつながる 4）人とつながる の4つを施策とし、舞台芸術を中心に据えた事業を展開しています。</p> <p>当該事業は、それぞれ上記の施策に基づき、適切に組み立てられたと思いますが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、残念ながら当初の予定通り事業を進めることができませんでした。</p> <p>「世界をみよう！」では、政府の水際対策の強化により、ヨーロッパから日本への入国許可の目途が立たなかったため、フランスやデンマークから招へい予定だった3作品を招へいすることができませんでした。</p> <p>「劇場へいこう！」では、教育委員会の判断により、区立小学校の団体鑑賞が中止になりました。</p> <p>「男たちの中で」では、感染症拡大防止対策のため客席を減らしての上演となりました。</p> <p>「遊ぼうよ！」では、緊急事態宣言により4月から5月にかけて当館が休館になったため、ゴールデンウィークに予定していた「みんなのリトル高円寺」を中止、時期をずらし開催期間も短くして小規模の開催となりました。また、「絵本の旅@カフェ」は対面での読み聞かせではなく電話を使った「もしもし便」に、「みんなの作業場」については休館中はオンラインでの開催に変更しました。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <hr/> <p>「実績報告書」に記載している通り、「世界をみよう！」では、近郊の親子劇場・子ども劇場と連携し、未就学の子どもを持つ家庭が親子で一緒に舞台作品をみる機会の提供、「劇場へいこう！」では、子どもとおとなと一緒に楽しめる質の高い舞台作品の創造及び鑑賞の機会の提供、「男たちの中で」では、世界的に重要な作家の日本初演となる作品の上演、「遊ぼうよ！」では、地域の子どもたちが年齢や学校を超えて交流し創造力をはぐくむ場の提供、を行い、劇場が年間を通して、学校と家庭と地域をつなぐ役割を果たしました。</p> <p>「劇場へいこう！」では、教育委員会の判断により、区立小学校の団体鑑賞が中止になり、私立校のみの実施となりましたが、先生方からは「子供たちもいろいろな行事が制限されている中、このような（鑑賞の）機会をいただき、大変喜んでいる」との意見をいただき、また、区立校からは例年以上のアウトリーチ・ワークショップの申し込みがあり、困難な状況だからこそその事業に対するニーズの高さを実感しました。</p> <p>また、助成により参加費やチケット料金を安価（または無料）に抑えることで、特に子育て中の家庭や学生の経済的な負担を軽減することができました。以上のことにより、助成に値する文化的、社会的、経済的意義を継続して認められると考えます。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

助成対象事業

公演事業：「世界をみよう！」「劇場へいこう！」「男たちの中で」

普及啓発事業：「遊ぼうよ！」

「実績報告書」の「目標及び指標」に記載してある目標について、定量と定性に分けて分析してみると、定量的目標として掲げた全6項目のうち、「達成した」2項目、「もう一息」2項目、「達成しなかった」2項目、定性的目標として掲げた全6項目のうち、「達成した」4項目、感染症拡大防止対策としてアンケートを実施しなかったため、測定不能が2項目、という結果となりました。

定量的目標として達成しなかったものは、入場者数の増加に関するもので、これについては新型コロナウイルス感染症の影響を受けた事業の一部中止、事業規模の縮小、客席数の削減によるものです。

ワークショップ事業に関して定量的目標として掲げた「地域の子どもたちの参加促進」については、区内参加者の割合が増えたことを確認したことにより、達成したといえます。新型コロナウイルス感染症の蔓延により、遠くへ出かけるよりも自分の住んでいる地域で楽しみを見つける傾向があることが読み取れます。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

助成対象事業

公演事業：「世界をみよう！」「劇場へいこう！」「男たちの中で」

普及啓発事業：「遊ぼうよ！」

計画当初の事業期間及び規模については適切だったと考えますが、上記の全ての事業において、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けました。

「世界をみよう！」では、政府の水際対策の強化により、ヨーロッパから日本への入国許可の目途が立たなかったため、フランスやデンマークから招へい予定だった3作品を招へいすることができず、座・高円寺で製作した作品『ピンポン』のみを期間を延長して上演しました。それによって支出が大幅に減りました。

「劇場へいこう！」では、教育委員会の判断により、区立小学校の団体鑑賞が中止になりました。

「男たちの中で」では、感染症拡大防止対策のため客席を減らしての上演となり、入場料収入の減額が予想されたので、支出を減らさざるを得ませんでした。

「遊ぼうよ！」では、緊急事態宣言により4月から5月にかけて当館が休館になったため、ゴールデンウィークに予定していた「みんなのリトル高円寺」を中止、時期をずらし開催期間も短くして小規模の開催となりました。また、「絵本の旅@カフェ」は対面での読み聞かせではなく電話を使った「もしもし便」に、「みんなの作業場」については休館中はオンラインでの開催に変更しました。

感染症拡大の影響がいつまで続くのかわからない状態で事業を進行・展開することは、いろいろなケースを想定して準備をしなければならず、通常の2～3倍の労力が必要で、とても大変でした。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

助成対象事業

公演事業：「世界をみよう！」「劇場へいこう！」「男たちの中で」

普及啓発事業：「遊ぼうよ！」

○劇場・音楽堂等を象徴する人物の存在

芸術監督が質的責任、技術監督が技術的な責任、館長が経済的責任をとる体制のもと、制作・広報・技術の各分野の専門スタッフが緊密な連携を取りながら最大限の能力を発揮し、アーティストと来場者に対して誠実に事業を行うことで、事業を円滑に運営することができました。

○提携団体の存在

設置者である杉並区や杉並区教育委員会をはじめとし、地域の団体（高円寺商店街連合会、他）、近隣の子ども関係の団体（北区こども劇場、目黒子ども劇場、他）や、学校（保育園、幼稚園、子供園、小学校、中学校、高等学校、大学、専門学校）、地方の劇場（茅野市民館、茅ヶ崎市民文化会館、他）や、海外の団体（アンスティチュ・フランス、イタリア文化会館、他）などさまざまな分野の団体から、事業の周知、経済的支援、間接的支援など多大な協力をいただき、多くの地域のみなさんに足を運んでもらうことができました。

○安全確保の取り組み

公益社団法人全国公立文化施設協会によって定められた「劇場、音楽堂等における新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドライン改訂版」に従い、安心して観劇できるよう、感染の予防に取り組みました。

・出演者やスタッフは、毎日入館時にサーモグラフィカメラによる検温と消毒マットによる靴裏の消毒を実施するとともに、マスク着用、こまめな手洗い、消毒液による手の消毒を励行し、稽古開始2週間前から健康管理に努めました。発熱等の体調不良に陥った場合は、速やかに申し出るなど、二次感染防止に努めました。

・けいこ場では、適宜手指の消毒ができるよう、要所に消毒液を設置。空調設備、空気清浄機の運転に加え、ドアの開放をするなど常に換気を行いました。原則として全員マスク（またはフェイスシールド、マウスシールド）を着用した。稽古スケジュールを工夫するなどして、けいこ場内が密にならないよう努めました。ケータリングは設置せず、けいこ場及び使用した椅子・テーブル、等は、毎日使用後に消毒を行いました。

・楽屋では、けいこ場に準じた対応を行いました。また、楽屋内が密にならないような楽屋割を計画し、化粧前に間仕切りを設置しました。

劇場入り～本番期間中は、会場内の空調設備を運転し、常に換気を行いました。多くの人々が触る可能性のある場所やモノは適宜消毒。本番に係わる出演者やスタッフは、本番前にPCR検査を受け陰性を確認しました。

・終演後の観客との面会は控え、楽屋では初日や楽日の打ち上げなどの会食に当たる行為は行いませんでした。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

助成対象事業

公演事業：「世界をみよう！」「劇場へいこう！」「男たちの中で」

普及啓発事業：「遊ぼうよ！」

〇ステークホルダーの期待（要求）や地域のニーズに応えているか

「劇場へいこう！」では、子どもとおとなが一緒に楽しめる質の高い舞台作品の創造（『ピノッキオ』『フランドン農学校の豚～注文の多いオマケ付き』）及び鑑賞の機会を提供しました。新型コロナウイルス感染症拡大によりさまざまな影響を受けている子どもたちが、舞台芸術に触れることによって、少しでも日頃の緊張がほぐれ前向きな気持ちになれるように、家族であれば何人でも定額で見られるチケット制度を導入したところ、予想以上に多くの地域のみなさんに来場していただくことができました。

本来であれば小学校4年生全員が鑑賞する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、教育委員会の判断により、区立小学校の団体鑑賞が中止になりました。団体鑑賞を実施した私立校の先生方からは「子供たちもいろいろな行事が制限されている中、このような（鑑賞の）機会をいただき、大変喜んでいる」との意見をいただきました。また、区立校からは例年以上のアウトリーチ・ワークショップ（俳優たちが学校へ出かけて行って授業時間中にワークショップを行う）の申し込みがあり、困難な状況だからこそその教育現場における舞台芸術に対するニーズの高さを実感しました。

毎週日曜日に子どもたち向けに行っているワークショップ「みんなの作業場」では、区民の参加割合が昨年よりも多くなるという結果がでました。新型コロナウイルスの影響を受け、遠くに出かけるよりも自分たちの住む町で参加できる楽しみのニーズが高まっていると感じました。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

助成対象事業

公演事業：「世界をみよう！」「劇場へいこう！」「男たちの中で」

普及啓発事業：「遊ぼうよ！」

○人材の育成

座・高円寺では、2年制の養成機関「劇場創造アカデミー」を通して、専門的知識を身につけるとともに、広く公共に向けて力を発揮できる人材の育成を行っています。当該事業でも「劇場創造アカデミー」の現役生や修了生がインターンやボランティアスタッフとして参加、また、修了生をスタッフとして雇用するなど、彼らに経験の場を提供することで、組織の活動が継続するための基盤づくりを行っています。

○教育機関とのネットワークの形成

「実績報告書」に記載している通り、各事業を通して、保育園から大学まで、さまざまな教育機関と連携を図ることで、事業の周知や集客、観客の育成に結び付けています。

○複合的なチェック機能を生かした持続的な強化と発展

事業の企画から実施を経て、観客によるアンケート、学校の先生によるアンケート、保護者へのヒヤリング、担当スタッフによる事後評価、外部団体による調査など、さまざまなチェック機能を複合的に利用し、事業の継続と更なる展開へつなげています。

○財源確保の取り組み

事業内容の充実と安定的な運営のため、全体の約三分の一を占める指定管理料に加え、地方公演の実施、助成金、補助金、協賛金（公、民、団体、個人）の獲得に努めました。今後の劇場の活性化と地域コミュニティの持続的な発展は、ひいては全体への発展と活力へとつながるのであり、財源確保の自助努力に加え、国からの継続的な支援が必要だと考えます。